

An illustration of a person's back and shoulder. A red, eye-like mark is visible on the upper back. The text is overlaid on the image.

リアル催眠再現音声 性感帯移動編

3

さらに深化させた状態での
脳イキ

アクメの後、起きてもらって
「どうでした？」と感想を聞きました。



「肩のあたりまで
感じてしまっ
て、
ゾクゾク
しました……」

性感帯移動は、どうやら、
腕全体にまで広がっていたようです。

すっかり感じてしまっているので、
いいですか、と同意を得たうえで、
さらに深い快感を与えてあげました。

再び眠りに落ちてもらい、
催眠状態の意識に語り掛けます。

好きな異性を思い浮かべてもらい、
その相手から愛撫されているイメージを
脳内で再現してもらいます。

「優しい手があなたの髪をゆっくりと
撫でています。その指が耳をくすぐり、
頬を撫でてきました。

フーッとくすぐるように、
耳に吐息を吹き掛けています……」



「あ、あ、あ」

前と同じように、目を閉じたまま
ヒクヒクと感じ始めたTさん。

前回は脳内のイメージだけで
イってもらいましたが、
今回はその先を目指します。

「さわりたくなってるでしょう？

いいですよ、自分でさわって。

愛撫されていることを意識しながら、
胸と股間を自分で愛撫してみましょう」



「ああ、はああ」

服の上から自分でさわっている彼女の
喘ぎが、だんだん大きくなってきます。

「我慢しなくていいですよ。
下着の中に手を入れて
みてください」

そう語りかけると、彼女の手が
服の下に潜り込みました。



「あふ……」

ブラとショーツの中に手を入れて
もらって、自分でさわってもらいます。
乳首と股間をくにくにと愛撫していた
彼女は、やがてビクビクと、
二度目のアクメを迎えました。



「はああ……」

それでもまだ快感が収まらない
ようなので、ぎゅっとハグして
安心感を与えて語り掛け、
また脳内イメージを増幅させました。

しばらくビクビクと震えていた
彼女は、やがてこの日、
3 回目のアクメに達しました。

横たわった状態で眠りから
覚めてもらうと、快感の余韻で
しばらくぼうっとしていました。
こんなに気持ち良いのは
初めてだったそうです。

その後催眠を解いて部屋を出るまで、
約二時間。

お互いにとって、とても濃密で
有意義な二時間でした。